

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070500448		
法人名	宗教法人 天理教 市丸分教会		
事業所名	グループホーム陽気		
所在地	長野県飯田市鼎下山270-1		
自己評価作成日	平成21年9月1日	評価結果市町村受理日	平成22年3月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070500448&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な生活を通しての陽気な暮らし

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

親を大切にするとする「親孝心」を元に、その人らしく暮らせるよう「陽気暮らし」を支援している。職員は、毎日の暮らしの中で、利用者同士の会話から学んでいる事も多い。こういった信頼関係から、その人らしく暮らせるよう「家庭的な生活」を通じて利用者と職員は支えあいながら生活をしている。管理者家族と生活を共にしているので、利用者にとっては、安心して暮らせる場となっている。又、同じ敷地内に多目的ホームを運営し、里子の受入れや独居の高齢者宿泊を行なっている。開設9年目を迎え、福祉サービスの向上を目指して一歩一歩改善され、更なる発展を期待したい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎週月曜日には、職員会議でその理念について読み合わせ、実践に向けた話をしている。</p>	<p>管理者、職員は、運営の理念に掲げてある「すべての人が老人になっても…」を毎週読み合い、サービス提供場面においても、理念に沿った実践が提供できているか、常に見直しを行っている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>宗教法人は、以前から地元に着定しているので、事業所も同じ様に交流している。</p>	<p>グループホームは、宗教法人の分教会に併設し、地元との係わりが常にあり、地域での相談事の対応やボランティアの訪問もあり徐々に地域とのつながりを広めている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症や、介護、ケア全般について、地域の人々の相談にのっている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議メンバーの方々の意見を良く聞いて、いろいろな創意工夫を出して頂いている。</p>	<p>運営推進会議は年間計画に沿って2ヶ月に1回開催され、委員から出された検討事項等について話し合いを行い、次の取組に向け実現するよう意見を頂いている。又現在取り組んでいる状況等報告し、委員からの具体的な提案の実現性を検討している。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>介護高齢課の窓口や毎月の介護事業所連絡会に出席している。</p>	<p>研修の事や制度等の事等、課題が生じた時は、市担当者に出向き相談を行い、適切なアドバイスを貰う等協力関係を築いている。</p>	

外部評価結果(グループホーム陽気)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1度職員会議で話し合い、理解を深めている。	月始めの1日と決めて、職員会において身体拘束等の学習会を行い、サービス提供場で実践してる。職員は、それぞれの利用者特有のリスクを把握し、更に情報を毎朝のミーティング時に共有している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1度、虐待防止について話し合い、防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に1度、権利擁護について話し理解を含め、必要に応じて、入居者の支援をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、よく説明し理解して頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関するすべての事について、利用者、家族等の意見を良く聞くようにしている。外部者へ表せる機会には運営推進会議等。	今年度より家族会を設けたり、ホームへの家族の訪問時等に意見・要望・不満等を前向きに聴き、それらの意見や苦情要望を運営に活かすよう努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の職員会議で話し合い、意見や提案を聞き反映させている。	職員会や毎朝のミーティング時に職員から意見等提案され、運営に活かしている。利用者と職員の馴染みの関係を保つ事が出来ており、現場の意見等を聞く事が出来ている。	職員会議の話し合いの内容を記録し、振り返ることにより更なる気づきが得られると思われるので記録の充実が求められる。

外部評価結果(グループホーム陽気)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>特に女性の就業者については、働きやすい様に常に考慮している。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>働くローテーションの中で少しずつ研修の機会を確保し、勉強している。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2ヶ月に1度のグループホーム同業者の集いに参加し、交流、勉強会をしている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に家庭訪問等をして、本人との信頼関係を築く様にしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族と何回か相互訪問をして、信頼される様に努力している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>良く家族の希望、意見等を聞いている。</p>		

外部評価結果(グループホーム陽気)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特に管理者夫婦がホームに住み込んでいるので、家庭的な生活に近づいた暮らしになっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等には月に1度の来訪を促し、入居者支援をお願いしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の訪問を歓迎し、又、入居者の地元訪問や墓参り等の支援している。	友人や知人の訪問を歓迎すると共に、本人が今まで暮して来た地域でお茶や食事に誘われ参加したり、墓参りしたり等の支援を行い、これまで本人を支えてくれた馴染みの取り巻く関係を大切にしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	炊事の共同作業やレクリエーション等で親睦を計り、同調できる様に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談等を受け付けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の家庭訪問で、生活状況等を把握し、入居後の生活に活かしている。	日々の生活の中から、本人の思いや意向を把握している。本人が言葉にしにくい思いは一緒に写真を見たり、今までの思い出から理解するよう努めたり、本人のつづきやきやさりげない行動から把握したりするよう努めている。	

外部評価結果(グループホーム陽気)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等から良く話しを聞き、希望に添う様努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らし方に対応して介護している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の職員会議で意見交換し、現状に合わせた介護計画になる様努めている。	職員会等で、利用者の状況や家族から出された意見や要望を重視して、本人の視点に立ち、本人が望む生活をチームで話し合い、介護計画を作成し、定期的にあるいは変化の応じて見直しされている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に元づいて、職員間で介護に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	墓参りや、元住んでいた地元訪問等、柔軟な支援やサービスに少しづつ取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の元住んでいた地域の方と交流。中学生、福祉体験ボランティア受け入れ。地区民生委員とのお茶会。		

外部評価結果(グループホーム陽気)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に往診(金曜日)して頂いて、健康管理に努めている。	かかりつけ医は、毎週定期的に往診してもらい、必要に応じて紹介状を頂き受診を進めたり、本人や家族の希望に沿って支援している。家族に代わって通院介助を行った場合の、受診結果に関する情報は、お便り等で共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がケアマネージャーなので、個々の健康管理に役立っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医による、紹介状などでの早めの対応をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族と相談したり、健康状態によって話し合いをしている。	入居時に、家族と相談し、健康状態によって話し合いを行なっているが、重度化や終末期のあり方について方針の共有やチームによる支援の検討はなされていない。	本人や家族の意向を踏まえチームワークによる一貫した関わりにより、事例検討やミーティングで振り返りを行い方針を共有し、家族とその都度、説明と同意等を繰り返し行い、方針をチームで確認をしながら取り組むことを望む。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練を定期的に行っていきたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対策を策定し、地域との協力を深めている。	地域との自治会災害時相互援助協定書を締結し、地域の消防訓練に利用者と一緒に参加している。今年度はスプリンクラー、火災報知装置を設置し、民生委員などの地域の方の参加も得て避難訓練も実施している。	

外部評価結果(グループホーム陽気)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に言葉使い良く、同じ態度で介護できる様話し合っている。	家族的な生活の中にも、人格を尊重した言葉使いが行われている。毎日の関りの中、利用者への誇りを傷つけたりしていないか、毎朝のミーティング時に振り返り対応に配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向をふまえて介護する様努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の良さを活かして、介護支援出来る様努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容等身だしなみに気をつけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材準備の手伝い等、できることから一緒にさせて頂いている。	利用者から、やる気を出して食事の下ごしらえから用意を行い、利用者と職員は同じテーブルを囲み、会話をしながら、旬の食材を使い美味しい食事を楽しく頂く工夫をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立メニューの工夫や、栄養士さんからのアドバイスを頂いて、工夫、支援に努めている。		

外部評価結果(グループホーム陽気)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	看護師さんの指導の元、清潔保持に努めている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護度に応じた自立支援に心がけている。	一人ひとりの排泄パターンを職員は把握していて、トイレでの排泄支援に心がけている。又、トイレ誘導や介助については本人のプライドを配慮した対応に心がけている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医の指示や、運動、水分等で気をつけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決める中で、少しづつ対応している。	車椅子の利用者には、職員が介助し、ゆったり入浴してもらっている。利用者の個々の意向を大切に、くつろいだ気分で気持ちよく入浴出来るよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせて対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に服薬支援をしている。		

外部評価結果(グループホーム陽気)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材準備の手伝い、おそうじ、レクリエーション等で支援に努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等、なるべく外に出れるよう努めている。	本人の状態に合わせ、近所のスーパーへの買い物、花見や紅葉狩りなど、行きたい場所への外出支援を行い、短時間でも気分転換をして、生き生きと過ごせる工夫に努めている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの認知状況に応じて支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等、かけたい時にかけることができる様努めている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭と同じ様にしている。	居間は日当たりがよく大きめの窓からは、隣接する教会の広場の庭や通路が見渡せる造りである。建物の周りには、四季折々の草花が眺められ、庭に飼われている愛犬も、利用者と仲良く、居心地のよい空間作りに工夫されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの希望に添って対応している。		

外部評価結果(グループホーム陽気)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が今まで使用したものをを使って生活している。	利用者のお気に入りや思い出の品、家族の写真、絵画等、今まで使用していたもので居室作りをされ、本人が落ち着いて安心して、過ごせるよう配慮されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症の程度に合わせて対応しているが、難しい。		